

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA- I		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシックA- I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりベースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	増本 彩 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師として勤務サロンワークの他、新人研修などの担当経験をもとに技術全般を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
4	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
5	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
6	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
7	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
8	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
9	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H

10	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
11	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
12	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
13	オールウェーブセッティング	テスト
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA-Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシックA-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	増本 彩 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師として勤務サロンワークの他、新人研修などの担当経験をもとに技術全般を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
4	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
5	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
6	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
7	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
8	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
9	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H

10	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
11	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
12	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
13	総合授業	総合授業
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎理論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識 I・美容知識 II・美容知識 III・美容知識 IV				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	増本 彩 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師として勤務サロンワークの他、新人研修などの担当経験をもとに技術全般を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	<< 8章 エステティック >> 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング	・エステティックの歴史、範囲、心得、注意点・皮膚の構造・カウンセリングの目的・実際、エステティックにおけるカウンセリング
2	4. 美容におけるマッサージ理論 5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマッサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマッサージ	・基本手技・フェイシャルの効果、方法・デコルテ、フェイシャルの手順 マッサージにおける手の動かし方と操作ポイント
3	<< 9章 ネイル技術 >> 1. ネイル技術概論 2. ネイル技術の種類 3. 爪の構造と機能 4. 爪のカット形状 5. ネイル技術と公衆衛生 6. カウンセリング	・ネイルケア、アーティフィシャルネイル、ネイルアート・爪の構造と機能・爪のカット形状・消毒方法の種類、器具の消毒手順、テーブルセッティングの一例・カウンセリング
4	7. ネイルケア 8. アーティフィシャルネイル 9. 手と足のマッサージ	・ネイルケアの道具、マニキュア・ペディキュア技術の手順・アーティフィシャルネイル技術の道具、プレハレーションの手順、ナチュラルネイルオーバーレイ技術の種類、ジェル技術の手順、シルクラップ技術の手順・グルー&ファイラー技術の手順、アーティフィシャルネイルの追加とオフ・ハンドマッサージのポイント・手順、フットマッサージのポイント・手順

5	<< 10章 メイクアップ >> 1. メイクアップ概論 2. 顔の形態学的な観察 3. メイクアップと色彩 4. 皮膚の生理と構造 5. メイクアップの道具 6. スキンケア 7. ベースメイクアップ	・メイクアップ概論(サロンワーク・スタジオワーク)・顔のプロポーション、顔の骨格と筋肉、顔の立体研究、メイクアップによる立体感、顔の凹凸に基づいたブロッキング・色の三属性、マルセル表色系による色の分類、角度配色・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具・クレンジング、トーンング、プロテクティング・ファンデーションの目的・選び方、塗り方と順序の一例、多色塗り、ハイライト、ローライト、カバーホワイト ベースメイクのアクセントカラー・パウダリング
6	8. アイメイクアップ 9. アイブロウメイクアップ 10. リップメイクアップ 11. ブラッシュオンメイクアップ 12. まつ毛エクステーション	アイライン、アイシャドー、カラーアイシャドー、パウダーアイシャドー、アイラッシュカール、マスカラ つけまつ毛のテクニック・眉の整え方、ドローイング、シェーディング ・リップの丸みのある描き方、鋭角的な描き方、ブラッシュオンメイクアップ ・まつ毛エクステーションにおける衛生及び保健、道具の一例・カウンセリング、注意事項、施術の一例
7	総まとめ	テストを実施する 8章～10章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	<< 11章 日本髪 >> 1. 日本髪の由来 2. 日本髪の各部の名称 3. 日本髪の種類と特徴 4. 日本髪と調和	・日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和
9	5. 日本髪の装飾品 6. 日本髪の結髪道具 7. 日本髪の結髪技術 8. 日本髪の手入れ 9. かつら	・日本髪の装飾品・日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術 ・日本髪の手入れ・かつら(かぶせ方、飾り方、付け方、簪の位置、外し方、持ち方、しまい方、手入れ)
10	<< 12章 着付けの理論と技術 >> 1. 着付けの目的 2. 礼装 3. 着物と季節 4. 着物のいろいろ 5. 帯 6. 小物 7. 着物各部の名称 8. 着物のたたみ方	・着付けの目的・女子礼装、男子礼装、礼装生地、準礼装、心得・着物と季節・着物のいろいろ・帯・小物の種類・着物の各部の名称・着物のたたみ方
11	9. 着付けの一般的要領 10. 留袖着付け技術 11. 振袖着付け技術 12. 帯締め、帯揚げの結び方 13. 男子礼装羽織、袴着付け技術	・体型補正、長襦袢の着付け・着物の着付け、帯結び・帯締めの結び方の一例、帯揚げの結び方の一例、男子礼装羽織、袴着付け技術
12	14. 羽織のひもの結び方 15. 女子袴着付け技術 16. 婚礼着付けの際の注意事項 17. 和装花嫁 18. 洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)	・羽織のひもの結び方・女子袴着付け技術・美容師自身の身だしなみ、不測の事態に備える、緊張をほぐすための細かい配慮、花嫁の動作に注意する、機敏な動作・和装花嫁・洋装花嫁
13	まとめ	まとめを実施する 11章～12章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
14	解説	まとめの振り返り・解説
15	美容技術理論Ⅱ 総まとめ	美容技術理論Ⅱ 総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	増本 彩 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師として勤務サロンワークの他、新人研修などの担当経験をもとに技術全般を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	美容技術理論Ⅰ 序章・1章	美容技術理論を学ぶにあたって・美容道具 重点項目振り返り
2	美容技術理論Ⅰ 2章・3章	シャンプー・ヘアデザイン 重点項目振り返り
3	美容技術理論Ⅰ 4章・5章	ヘアカット・パーマ・ウェーブ 重点項目振り返り
4	美容技術理論Ⅰ 6章・7章	ヘアセット・ヘアカラーリング 重点項目振り返り
5	美容技術理論Ⅰ 総まとめ	美容技術理論Ⅰ まとめを行う
6	対策	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
7	まとめ	まとめを実施する 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
9	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説

10	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
11	まとめ	美容技術理論 I・II 重点項目復習
12	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識 I - I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識 I - I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識 I ・美容知識 II ・美容知識 III ・美容知識 IV				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海井 美紀 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、その経験を活かし大学でも講義をしたのち専門学校で技術や知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」「保健所と理容業・美容業」の復習
2	1編 公衆衛生 2章 保健①	「母子保健」「成人・高齢者保健」①の復習
3	1編 公衆衛生 2章 保健②	「成人・高齢者保健」②「精神保健」の復習
4	1編のまとめ 2編 環境衛生 1章 環境衛生①	単元テストを実施→振り返り・解説 「環境衛生の概要」「空気環境」の復習
5	2編 環境衛生 1章 環境衛生②	「衣服・住居の衛生」「上下水道と廃棄物」の復習
6	2編 環境衛生 2章 環境衛生③	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」の復習
7	2編のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論①	単元テストを実施→振り返り・解説 「人と感染症」の復習
8	3編 感染症 1章 感染症の総論②	「病原微生物」の復習
9	感染症の総論①のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論③	感染症の総論① 単元テストを実施→振り返り・解説 「感染症の予防」の復習

10	感染症の総論②のまとめ 3編 感染症 2章 感染症の各論①	感染症の総論② 単元テストを実施→振り返り・解説 「空気・飛沫を介して感染する感染症」の復習
11	3編 感染症 2章 感染症の各論②	「飲食物を介して感染する感染症」の復習 「血液等を介して感染する感染症」の復習
12	3編 感染症 2章 感染症の各論③	「動物・節足動物を介して感染する感染症」の復習 「具体的な対策の例」の復習
13	感染症の各論のまとめ 3編の総まとめ	感染症の各論 単元テストを実施→振り返り・解説 3編の総まとめを実施する
14	テスト	テストを実施する
15	総合授業	テストを返却→振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海井 美紀 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、その経験を活かし大学でも講義をしたのち専門学校で技術や知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論①	「消毒法とは」「消毒の意義」の復習 「理容・美容の業務と消毒との関係」の復習
2	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論② 消毒法総論まとめ	「消毒法と適用上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
3	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論①	「理学的消毒法・化学的消毒法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習
4	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論② 消毒法各論まとめ	「理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
5	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習①	「各種消毒薬」(消毒液の概要、器具の使い方、常備しておくよい消毒薬と希釈液の濃度、消毒薬希釈液法)の復習
6	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習②	「理容所・美容所の消毒の実際」①(理容所・美容所における消毒の原則、消毒設備、器具類の消毒法、理容師・美容師の手指の消毒) 「理美容所の清潔法の実際」②(清潔保持と清掃、洗剤による清浄法、洗い場の構造と清潔保持、清掃、刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒、ハエやカなどの駆除)
7	消毒法実習まとめ 第5編 衛生管理の実践例 1章 衛生管理要領①	単元テストを実施→振り返り・解説 第1 目的～第4 衛生的取り扱い等①
8	第5編 衛生管理の実践例 1章衛生管理要領②	第1 目的～第4 衛生的取り扱い等② 第5 消毒～第6 自主的管理体制
9	衛生管理の実践例まとめ 4編の総まとめ	単元テストを実施→振り返り・解説 まとめを実施する。振り返り・解説

10	テスト	テストを実施する
11	国試過去問演習①	テストを返却→振り返り・解説 美容師国家試験過去問の演習と解説
12	国試過去問演習②	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	国試過去問演習③	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	国試過去問演習④	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域(2編皮膚科学)に関する正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	川村 真由美	実務経験		○	
実務内容	看護師として現在も勤務しながら、座学も教授している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人体の構造および機能の復習 (第1章～2章)	頭部・顔部・頸部の体表解剖学、骨格器系の演習(国家試験過去問題)と解説
2	人体の構造および機能の復習 (第3章～4章)	筋系、神経系の演習(国家試験過去問題)と解説
3	人体の構造および機能の復習 (第5章～7章)	感覚器、血液、循環器系の演習(国家試験過去問題)と解説
4	人体の構造および機能の復習 (第8章～9章)	呼吸器系、消化器系の演習(国家試験過去問題)と解説
5	皮膚科学(第1章)	皮膚の構造
6	皮膚科学(第2章)	皮膚付属機関の構造 1項 毛
7	皮膚科学(第2章～3章)	皮膚付属器官の構造 2項脂腺 3項汗腺 4項爪 皮膚の循環器系と神経系
8	皮膚科学(第4章)	皮膚と付属器官の生理機能
9	総まとめ	テストを実施する

10	皮膚科学(第5章)	皮膚と皮膚付属器官の保健
11	皮膚科学(第6章)	皮膚と皮膚付属器官の疾患 1項 皮膚の異常と病態 2項皮膚炎・湿疹・3項 蕁麻疹・4項 薬疹 5項 口唇の疾患
12	皮膚科学(第6章)	皮膚と皮膚付属器官の疾患 6項温熱・寒冷による皮膚障害 7項角化異常による皮膚疾患 8項 色素異常による皮膚疾患 9項 血管腫 10項 脂腺母斑 11項 下肢静脈瘤 12項 分泌異常による皮膚疾患
13	皮膚科学(第6章)	皮膚と皮膚付属器官の疾患 13項 化膿菌による皮膚疾患 14項ウイルスによる皮膚疾患 15項 真菌による皮膚疾患 16項 衛生害虫による皮膚疾患 17項 感染症の皮膚予防 18項 毛と爪の疾患 19項 皮膚の腫瘍
14	総まとめ	テストを実施する
15	解説 皮膚科学(第6章)	振り返り・テスト解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域(2編皮膚科学)に関する正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	川村 真由美	実務経験		○	
実務内容	看護師として現在も勤務しながら、座学も教授している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚科学の復習(第1～2章)	皮膚の構造と皮膚の付属器官の構造の演習と解説
2	皮膚科学の復習(第2章～4章)	皮膚の付属器官の構造と循環器系と神経系の演習と解説
3	皮膚科学の復習(第5章)	皮膚と付属器官の保健の演習と解説
4	皮膚科学の復習(第6章)	皮膚と付属器官の疾患の演習と解説
5	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
6	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
7	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
8	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
9	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習

10	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
11	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
12	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
13	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
14	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
15	国家試験対策	国家試験前重要ポイント復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	化粧品化学1 化粧品化学2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「化粧品化学」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海井 美紀 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、その経験を活かし大学でも講義をしたのち専門学校で技術や知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 1章 化粧品概論	美容師免許を所得する上での必要性 取得までの流れを説明する
2	1章 化粧品概論	「化粧品とは何か」「薬機法とは何か」「美容師との関係は？」
3	2章 化粧品原料	「化粧品の対象となる人体各部の性状」「水性原料」「油性原料」の解説と演習
4	2章 化粧品原料	「油性原料」「界面活性剤」「高分子化合物」の解説と演習
5	2章 化粧品原料	「色材」「香料」「その他配合成分」「ネイル、まつ毛エクステンション用材料」の解説と演習
6	3章 基礎化粧品	「皮膚洗浄用化粧品」「化粧水」「クリーム・乳液」「その他の基礎化粧品」「メイクアップ用化粧品」 の解説と演習
7	4章 メイクアップ用化粧品 5章 頭皮・毛髪用化粧品	「メイクアップ化粧品の種類と剤形」「ベースメイクアップ化粧品」 「ポイントメイクアップ化粧品」の解説と演習 「シャンプー剤」「スタイリング剤」の解説と演習
8	まとめ	まとめを行う
9	5章 頭皮・毛髪用化粧品	「スタイリング剤」の解説と演習

10	5章 頭皮・毛髪用化粧品	「パーマ剤」の解説と演習
11	5章 頭皮・毛髪用化粧品	「ヘアカラー」の解説と演習
12	6章 芳香製品と特殊化粧品	「芳香・特殊化粧品」「特殊化粧品」の解説と演習
13	6章 芳香製品と特殊化粧品	「芳香・特殊化粧品」「特殊化粧品」の解説と演習
14	まとめ	まとめを行う
15	解説	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	化粧品化学1 化粧品化学2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「化粧品化学」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海井 美紀 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、その経験を活かし大学でも講義をしたのち専門学校で技術や知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	付録 化粧品化学を理解するための基礎化学 付録1～付録2	「物質の構成」「物質(水)の構成」の解説と演習
2	化粧品化学を理解するための基礎化学 付録3～付録5	「溶液とコロイド」「イオンと水素イオン指数」「物質の変化と化学反応」の解説と演習
3	化粧品化学を理解するための基礎化学 付録6～付録7	「酸化・還元反応」「タンパク質」の解説と演習 化学範囲の復習
4	化粧品化学	「化粧品分野」重点項目の復習と確認
5	化粧品化学	「化粧品分野」重点項目の復習と確認
6	化粧品化学	「化粧品分野」重点項目の復習と確認
7	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
8	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
9	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認

10	まとめ	まとめを行う
11	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
12	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
13	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
14	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
15	国家試験対策	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ-Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ-Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度1 関係法規・制度2(美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる				
評価基準	テスト(小テスト等含む):75% 授業態度(提出物等含む):25%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	都香 宏	実務経験		○	
実務内容	高校で教員として勤続後、起業をして有限会社を設立し運営している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 第1章・第2章の復習	国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明 成績・評価の説明 第1章・第2章の復習
2	第3章の復習	第3章1節～3節「美容師になるまで」の復習
3	第3章の復習	第3章3節「美容師に求められる義務」～「管理美容師」の復習
4	第3章 理容師法・美容師法 第4節	美容所の開設に必要な届出・検査
5	第3章 理容師法・美容師法 第4節	開設者が求められる義務および美容所以外での業務
6	第3章 理容師法・美容師法 第5節	立入検査と環境衛生監視員
7	まとめ	まとめを行う
8	解説・まとめ	振り返り・解説
9	第3章 理容師法・美容師法 第6節	違反者に対する行政処分

10	第3章 理容師法・美容師法 第7節	違反者に対する罰則
11	第4章 関連法規	美容業の衛生に関する関連法規
12	第4章 関連法規	美容業の振興に関する関連法規
13	第4章 関連法規	美容業の雇用、消費者保護に関する関連法規
14	まとめ	まとめを行う
15	解説・総まとめ	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度1 関係法規・制度2(美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる				
評価基準	テスト(小テスト等含む):75% 授業態度(提出物等含む):25%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	都香 宏	実務経験		○	
実務内容	高校で教員として勤続後、起業をして有限会社を設立し運営している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 第2章の復習	ワークブックを用いて問題演習
2	第3章の復習(1)	ワークブックを用いて問題演習
3	第3章の復習(2)	ワークブックを用いて問題演習
4	第3章の復習(3)・第4章の復習(1)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
5	第4章の復習(2)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
6	まとめ	まとめを行う
7	解説:まとめ	振り返り・解説
8	総復習(1)	国家試験過去問演習等
9	総復習(2)	国家試験過去問演習等

10	総復習(3)	国家試験過去問演習等
11	総復習(4)	国家試験過去問演習等
12	総復習(5)	国家試験過去問演習等
13	まとめ	まとめを行う
14	解説・まとめ	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストヘア I		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘア I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ、カット教材一式、カラー教材一式、ワインディング教材一式、ドライヤー、ブラシ類、スタイリング剤、シャンプー教材一式、美容技術理論 I		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプーイングの目的と頭皮毛髪の基本的知識を習得し、施術内容によるシャンプーイングの違いを知る。 ・パーマネットウェーブの理論を学び薬剤の特徴、仕上がり、使用目的に応じた使い方を学ぶ。 ・コンテストにおいて必要なテクニックやカラーデザインを身に付け、デザインに応じたスタイル作成。 				
到達目標	デザインに必要な要素を取り入れて作品を完成させる。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	増本尚平 他2名	実務経験		○	
実務内容	美容室スミス(サロン)に開業し、技術や育成に従事した経験をもとに技術全般を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	この授業の目的・評価基準・マナールール説明 教材確認(教材の名称・扱い方・管理方法)
2	シャンプーイング	シャンプー知識、ブラッシング(相モデル)
3	シャンプーイング	シャワーヘッドの使用法、シャンプーのプロセス理解
4	シャンプーイング	プレシャンプー(相モデル)
5	シャンプーイング	シャンプー手順(相モデル)
6	シャンプーイング	リンス、コンディショナー、トリートメント(相モデル)
7	シャンプーイング	ブラッシングからトリートメントプロセス(相モデル)
8	シャンプー小テスト	ブラッシングからトリートメントプロセス(相モデル)
9	シャンプーイング	スキャルプトリートメント(相モデル)

10	シャンプーイング	スカルプトリートメント(相モデル)
11	シャンプーイング	ヘッドスパ(プロセス)(相モデル)
12	シャンプーイング	ヘッドスパ(プロセス)(相モデル)
13	シャンプーイング	ヘッドスパ(リラクゼーションマッサージ)(相モデル)
14	まとめ	ヘッドスパ(リラクゼーションマッサージ)まとめ
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ、カット教材一式、カラー教材一式、ワインディング教材一式、ドライヤー、ブラシ類、スタイリング剤、シャンプー教材一式、美容技術理論Ⅰ		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプーイングの目的と頭皮毛髪の基本的知識を習得し、施術内容によるシャンプーイングの違いを知る。 ・パーマントウェーブの理論を学び薬剤の特徴、仕上がり、使用目的に応じた使い方を学ぶ。 ・コンテストにおいて必要なテクニックやカラーデザインを身に付け、デザインに応じたスタイル作成。 				
到達目標	デザインに必要な要素を取り入れて作品を完成させる。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	増本尚平 他2名	実務経験		○	
実務内容	美容室を開業し、技術や育成に従事した経験をもとに技術全般を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パーマントウェーブ理論	理論を理解した上で、デザイン巻
2	パーマントウェーブ理論	実際にコールド液を使用(ロッドやピンパーマの仕上りの違い等)
3	パーマントウェーブ理論	実際にコールド液を使用(ロッドやピンパーマの仕上りの違い等)
4	コンテスト技術/カラー	各コンテストに向けデザインイメージ 提出
5	コンテスト技術/カラー	コンテストデザインに向けヘアスタイル作り
6	コンテスト技術/カラー	コンテストデザインに向けヘアスタイル作り
7	コンテスト技術/カラー	コンテストデザインに向けヘアスタイル小まとめ
8	コンテスト技術/カラー	コンテストデザインに合わせカラー
9	コンテスト技術/カラー	コンテストデザインに合わせカラー

10	コンテスト技術/カラー	コンテストデザインに合わせカラー
11	総合授業	作品制作
12	総合授業	作品制作
13	総合授業	作品制作
14	まとめ	まとめ
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストメイク I		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイク I		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	ヘア&メイクのトータルコーディネートを学び、個々の創造力を豊かにする				
到達目標	デザインに必要な要素を取り入れて作品を完成させる。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石堂 津多江 他1名	実務経験	○		
実務内容	化粧品販売が企業で美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標・評価基準・授業ルール・教材確認・セッティング
2	スキンケア 毎日メイクの作成・発表	スキンケア～フルメイク
3	スキンケア・ベースメイク	スキンケア～ベースメイク
4	スキンケアテスト・ベースメイク	スキンケア～ベースメイク まとめ
5	ベースメイク①	ベースメイク
6	ベースメイク②	ベースメイク(まとめ)
7	ポイントメイク①	ポイントメイク(アイシャドウ)
8	ポイントメイク②	ポイントメイク(アイメイク・アイブロウ)
9	ポイントメイク③	ポイントメイク(アイメイク・アイブロウ)

10	ポイントメイク④	ポイントメイク(リップ・チーク)
11	フルメイク	フルメイク
12	フルメイクまとめ	フルメイク(まとめ)
13	メイク撮影①	フルメイク
14	メイク撮影②	フルメイク
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅡ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	ヘア&メイクのトータルコーディネートを学び、個々の創造力を豊かにする				
到達目標	デザインに必要な要素を取り入れて作品を完成させる。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石堂 津多江 他1名	実務経験	○		
実務内容	化粧品販売企業で美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標・評価基準・授業ルール・教材確認・セッティング
2	ポイントメイク	顔に何かを貼ってみよう
3	ポイントメイク	顔に絵や線を描いてみよう
4	フルメイク	カラフルメイク
5	フルメイクまとめ①	カラフルメイク(まとめ)
6	フルメイクまとめ②	カラフルメイク(まとめ)
7	撮影とは	撮影ポイント・卒業制作に向けて
8	作品撮りリハーサル①	卒業制作のデッサン画作成
9	作品撮りリハーサル②	相モデルでフルメイク練習

10	作品撮りリハーサル③	相モデルでフルメイク練習
11	作品撮りリハーサル④	相モデルでフルメイク～撮影まで本番同様にリハーサル
12	作品撮りリハーサル⑤	相モデルでフルメイク～撮影まで本番同様にリハーサル
13	卒業制作①	相モデルでフルメイク～撮影
14	卒業制作②	相モデルでフルメイク～撮影
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ、カット教材一式、カラー教材一式、ワインディング教材一式、ドライヤー、ブラシ類、スタイリング剤、シャンプー教材一式、美容技術理論Ⅰ		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第1課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	デザインに必要な要素を取り入れて作品を完成させる。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	福井悠子 他2名	実務経験		○	
実務内容	美容師としてサロンで働き、技術全般を教え人材育成に携わり美容技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	この授業の目的・評価基準・マナールール説明 教材確認(教材の名称・扱い方・管理方法)
2	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
3	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
4	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
5	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
6	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
7	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
8	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
9	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく

10	国家試験第一課題	美容実習と併せて国家試験第一課題を行っていく
11	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
12	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
13	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
14	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ、カット教材一式、カラー教材一式、ワインディング教材一式、ドライヤー、ブラシ類、スタイリング剤、シャンプー教材一式、美容技術理論Ⅰ		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	デザインに必要な要素を取り入れて作品を完成させる。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	福井悠子 他2名	実務経験		○	
実務内容	美容師としてサロンで働き、技術全般を教え人材育成に携わり美容技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
2	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
3	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
4	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
5	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
6	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
7	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
8	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
9	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定

10	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
11	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
12	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
13	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
14	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブ I		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブ I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	まつ毛エクステの道具一式 カット道具一式		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	まつ毛エクステについて理解し、装着ができるようになる カットの種類を学び、理解する				
到達目標	まつ毛エクステ検定に合格できるようにする カット技術の定着				
評価基準	テスト50% 授業態度25% 提出物25%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上のもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	美容技術理論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	田中美美子 他1名	実務経験	○		
実務内容	まつげエクステサロンを経営し、技術や知識をもとにサロンワークを行う経験を活かしアイラッシュ技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【理論】道具の確認	まつ毛エクステに使用する道具の名称などを確認する
2	【実技】ワゴンセッティング	実際に使用する道具を使用し、机上をワゴンに見立ててセッティングの場所を覚える
3	【理論】衛生管理	まつ毛エクステに必要な知識を勉強する
4	【実技】まつ毛エクステンション技術	まつ毛エクステに必要な実技を勉強する
5	【理論】保健(目・皮膚)	まつ毛エクステに必要な知識を勉強する
6	【実技】まつ毛エクステンション技術	まつ毛エクステに必要な実技を勉強する
7	【理論】保健(まつ毛の知識)	まつ毛エクステに必要な知識を勉強する
8	【実技】テーピング・リムービング	まつ毛エクステに必要な実技を勉強する
9	【理論】カウンセリング	まつ毛エクステに必要な知識を勉強する

10	【実技】装着復習	まつ毛エクステに必要な実技を勉強する
11	【理論】カウンセリング	まつ毛エクステに必要な知識を勉強する
12	【実技】装着復習	まつ毛エクステに必要な実技を勉強する
13	【理論】テスト(概要～用具)	まつ毛エクステに必要な知識を勉強する
14	まとめ	実技のまとめを行う
15	まとめ	実技・筆記のまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	美容師国家試験第1課題、第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第1課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのペースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第1課題、第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 授業態度25% 提出物25%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上のもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	植松葉月 他8名	実務経験		○	
実務内容	サロン業務(TVCM)撮影、雑誌ヘアメイク、ブライダルヘアメイクなどを経てフリーランスとして美容技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	後期の技術の流れを伝える
2	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
3	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
4	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
5	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
6	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
7	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
8	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
9	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定

10	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
11	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
12	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
13	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
14	国家試験第一課題	国家試験課題 タイム測定
15	総まとめ	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策 I		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	ノート・筆記用具		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人としてのマナーやルールを学び就職内定につなげる				
到達目標	希望する企業に内定をいただき、社会人としての自覚を持つ				
評価基準	テスト:50% 授業態度:50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小倉望	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成や技術全般を指導した経験を活かし美容技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	学校生活に関するマナー	マナールールを理解する
2	求人票の見方・サロン調べ	求人票に何が書いてあるかを理解し、自分の希望するサロンを調べる
3	履歴書の書き方①	履歴書の基本情報(左側・資格情報)を記入する
4	履歴書の書き方②	自己PRを考える
5	履歴書の書き方③	自己PRを仕上げる
6	履歴書の書き方④	志望動機を考える
7	履歴書の書き方⑤	志望動機を仕上げる
8	報告書・お礼状の書き方	サロン見学や受験後の報告書・内定先へのお礼状の書き方を学ぶ
9	電話のかけ方・メールの指導	就職希望先・就職先への電話のかけ方やメールの送り方について再度確認をする

10	面接練習①	面接の入退室の練習 試験官と面接者をグループを作り練習する
11	面接練習②	志望動機や自己PRなどを実際に話してみる
12	試験対策①	漢字・計算・敬語・四字熟語・ことわざなど筆記対策を行う
13	試験対策②	漢字・計算・敬語・四字熟語・ことわざなど筆記対策を行う
14	試験の実施	試験の実施
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	ノート・筆記用具		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人としてのマナーやルールを学び就職内定につなげる				
到達目標	希望する企業に内定をいただき、社会人としての自覚を持つ				
評価基準	テスト:50% 授業態度:50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小倉望	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成や技術全般を指導した経験を活かし美容技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	学校生活に関するマナー	再度確認を実施する
2	就職に向けての意識付け①	就職未決定者:就職スケジュールを立てる 就職決定者:入社するにあたり、残りの学校生活をどのように送るのかの目標を立てる
3	就職に向けての意識付け②	就職未決定者:就職スケジュールを立てる 就職決定者:入社するにあたり、残りの学校生活をどのように送るのかの目標を立てる
4	社会人としての基礎力をあげる①	社会人として必要なビジネスマナーを学ぶ
5	社会人としての基礎力をあげる②	社会人としての自覚をもつために
6	社会人としての基礎力をあげる③	新入社員の時に心がけることを学ぶ
7	目標設定①	3年間の自分を振り返る
8	目標設定②	2年後・5年後の自分を考える
9	目標設定②	3年間の自分を振り返り、2年後・5年後の自分をみんなにプレゼンテーションする

10	将来に向けて①	接客について考える
11	将来に向けて②	人前で話すことに慣れる(お題を決めて1分間スピーチの練習)
12	試験対策①	ビジネスマナーについて
13	試験対策②	商品売るトークの練習(就職する職種によりさまざま考える)
14	試験を実施	25分 ビジネスマナーについて 20分 1分間の商品売るトーク
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックB		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシックB		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	90
使用教材	ワインディングまたはオールウエーブ教材一式・ カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験 実技試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験 第1課題・第2課題・国家試験衛生合格レベルを習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三宅洋之 他8名	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、サロンワークを主体に人材育成や運営にも従事した経験を活かし美容技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
6	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
7	国家試験第1課題・第2課題 まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 まとめを実施する
8	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生

9	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第1課題・第2課題 総まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	教科書 ノート	出版社			

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容経営者として活躍する上で必要とする知識の基礎を理解する。 美容業界で活躍していくために、美容全般の技術と理論について習得する。				
到達目標	自身で生活の中から知識や理論を深めることができる。 美容師国家試験(筆記)に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト:50% 小テスト:30% 授業態度:20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	田代耕二/都賀宏	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第1節 第2節 第1章 総論 第1節 総論	経営を定義、経営の必要性を教える 経営の捉え方、経営資源とは、経営計画とはを教える 第1節理容業・美容業の発生第2節江戸時代の理容業・美容業 第3節近代の理容業・美容業第4節現代の理容業・美容業 第1章小テスト
2	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第5節 第6節 第2章 理容業・美容業の経営について第1 節 第2節 第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳 第3章ファッション文化史日本編 第2節 古代(飛鳥・奈良・平安時代)	経営戦略とは何か/良い店の実現を教える 業界の概要/競争と方向性の変化を教える 縄文・弥生・古墳時代の髪型・化粧・服装について 古代の髪型・化粧・服装について
3	第2章 理容業・美容業の経営について第3 節 第4節 第3章 資金の管理 第1節 第2節 第3章ファッション文化史日本編 第3節 第4節 第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世Ⅱ(江戸時代)	美容業界のサービスについて教える 資金管理の重要性と資金の流れを把握することを教える 中世・近世Ⅰの髪型・化粧・服装について 江戸時代の髪型について

4	<p>第3章 資金の管理 第3節 第4節 第5節 第2編人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第1節 第2節 第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世Ⅱ(江戸時代) 第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代(明治・大正・昭和20年まで)</p>	<p>会計の意味や考え方、コスト管理を教える 各税金と、従業員に対する労務管理の基本を教える 江戸時代化粧・服装について日本髪 髪型・服装・日本髪小テスト 明治の髪型・服装・化粧について</p>
5	<p>第2編人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第3節 第4節 第5節 第6節 第2編人という資源 従業員としての点 第1章 人という資源 第2章健康・安全な職場環境の実現 第1節 第2節 第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代(明治・大正・昭和20年まで) 第3章ファッション文化史日本編 第7節 現代Ⅰ(1945～1950年代)</p>	<p>モチベーションの上げ方/給与/待遇と福利厚生について教える 労働者の権利、健康で安全な職場環境について教える 明治の髪型・服装・化粧について 大正、昭和の髪型・服装・化粧について</p>
6	<p>第2編人という資源 従業員としての視点 第2章健康・安全な職場環境の実現 第3節第4節 第3章従業員としての視点から 第1節 第2編人という資源 従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から 第2節 第3節 第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ(1960～1970年代) まとめ</p>	<p>美容業の健康課題、社会人の責任を教える 各種社会保険について教える(1) 1960～1970年代の髪型・化粧・服装について まとめを実施する</p>
7	<p>まとめ 振り返り テスト解説 第3章ファッション文化史日本編 第9節 第10節 総まとめ</p>	<p>授業習得度の確認 テスト回答&解説 テストの振り返り・解説 1980～2000年代の髪型・化粧・服装について 総まとめを行う</p>
8	<p>第2編人という資源 従業員としての視点 第3章従業員としての視点から 第3節 第4節 第2編人という資源 従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から 第5節 第6節 第3編顧客のために 第1章サービスデザイン 第1節 第4章ファッション文化史西洋編 第1節～第3節 古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマン 第4章ファッション文化史西洋編 第4節中世ヨーロッパ</p>	<p>各種社会保険について教える(2) キャリアプランを組立てる重要性、サービスデザインについて教える 古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマンの髪型、化粧、服装について 中世ヨーロッパ、16世紀の髪型・化粧・服装について</p>
9	<p>第3編顧客のために 第1章 サービスデザイン第2節 第3節 第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン 第4節 第5節 第4章ファッション文化史西洋編 第5節近世Ⅰ(16世紀)第6節近世Ⅱ(17世紀) 第4章ファッション文化史西洋編 第7節近世Ⅲ(18世紀)</p>	<p>価値の構造、顧客満足、システムについて教える 人の価値と顧客の価値の多様性について教える 16世紀、17世紀の髪型・化粧・服装について 18世紀の髪型・化粧・服装について</p>
10	<p>第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン第6節 第2章マーケティング第1節 第3編 顧客のために 第2章 マーケティング 第2節 第3節 第4章ファッション文化史西洋編 第8節近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め) 第9節近代Ⅱ(19世紀) 第4章ファッション文化史西洋編 第10節現代Ⅰ(1910～1920年代) 第11節現代Ⅱ(1930～1940年代前半)</p>	<p>サービスの範囲、美容病のマーケティングの特徴と要点を教える マーケティングミックスの短期的要因について教える(1) 18世紀、19世紀の髪型・化粧・服装について 近世Ⅰ～近代小テスト 1910～1940の髪型・化粧・服装について</p>

11	<p>第3編 顧客のために 第2章 マーケティング 第4節 第3編 顧客のために 第2章 マーケティング 第5節 第6節 第4章ファッション文化史西洋編 第12節現代Ⅲ(1940後半～1950年代) 第13節現代Ⅳ(1960年代) 第4章ファッション文化史西洋編 第14節現代Ⅴ(1970年代)</p>	<p>マーケティングミックスの短期的要因について教える(2) マーケティングミックスの長期的要因について教える 1940～1960の髪型・化粧・服装について 1970の髪型・化粧・服装について</p>
12	<p>第3編顧客のために第3編 顧客のために 第2章マーケティング 第7節 第3 章サービスにおける人の役割 第1節 第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割 第2節 第3節 第4章ファッション文化史西洋編 第15節現代Ⅵ(1980年代) 第4章ファッション文化史西洋編 第16節現代Ⅶ(1990～2010年代)</p>	<p>サービスのシステム化と接客について教える 接客の計画と準備、接客力の高め方と接客の実践法について教える(1) 1980の髪型・化粧・服装について 1990～2010年代の髪型・服装・化粧について</p>
13	<p>第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割 第4節 第5節 第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割第6節 第7節 第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装</p>	<p>接客の実践について教える(2)(3) 接客の実践について教える(4)(5) 和装の礼装について</p>
14	<p>第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割第8節 第9節 第10節</p>	<p>接客トラブルの対応、クレームや事故への対策・対処方法について教える</p>
15	<p>総まとめ</p>	<p>後期授業内容の習得度の確認</p>